

Saiseikai Niigata Hospital



交通アクセス



【新潟駅からバスで来院の方】
 学校町～信濃町～西部営業所行に乗車
 水島町～県庁前～西部営業所行に乗車
 済生会病院または済生会病院前で下車

【電車とタクシーで来院の方】
 JR新潟駅万代口よりタクシーで約20分
 JR小針駅よりタクシーで約5分

【自家用車で来院の方】
 新潟バイパス新潟黒埼インターより約5分



社会福祉法人 恩賜財団 済生会支部
 新潟県済生会
済生会新潟病院

〒950-1104 新潟市西区寺地280-7
 済生会新潟病院 人事課 採用担当
 TEL: 025-233-6161(代表)
 E-mail: saiyou@ngt.saiseikai.or.jp
<https://ngt.saiseikai.or.jp>



ともに歩み、支える

看護師募集

Nurse Recruitment



社会福祉法人 恩賜財団 済生会支部
 新潟県済生会
済生会新潟病院

済生会新潟病院 看護部

Nursing Department

自分で考え、行動する、
看護のプロフェッショナルを
目指しましょう。

～済生会病院の看護の力で
新潟市の救急医療を明るく～



"Saiseikai" Niigata Hospital

済生会とは

● 創立とあゆみ

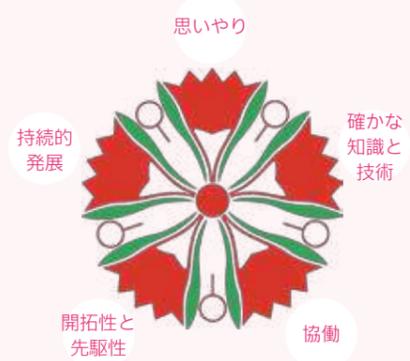
済生会は1911年(明治44年)、明治天皇の済生勅語によって創設されて以来、幾多の曲折を経ながらも「済生」の心を受け継ぎ、保健・医療・福祉の充実と発展を目指し、数多くの事業を行っています。

現在は社会福祉法人済生会として、東京に本部、40都道府県に支部を置いて活動しています。



故名誉総裁
高松宮宣仁親王妃
喜久子殿下 御書

● 『施薬救療の精神』を体現するとは



看護部理念

利用者の立場に立ち、信頼される看護の発展に努めます。

- 看護職者の倫理を守り、仕事に責任をもちます
- 安全で質の高い看護を提供します
- 時代にあった知識と技術を常に探求します

看護部教育理念

看護部理念に基づき、豊かな感性と創造性を有する自律した看護職としての、成長および自己実現が達成できるように支援する。

求められる看護師像

自ら考え、自ら判断し、自ら行動し、結果には責任をもつ。
患者さんの立場を尊重し、常に思いやりをもって接する。
身だしなみ良く、言葉は丁寧で常に笑顔である。

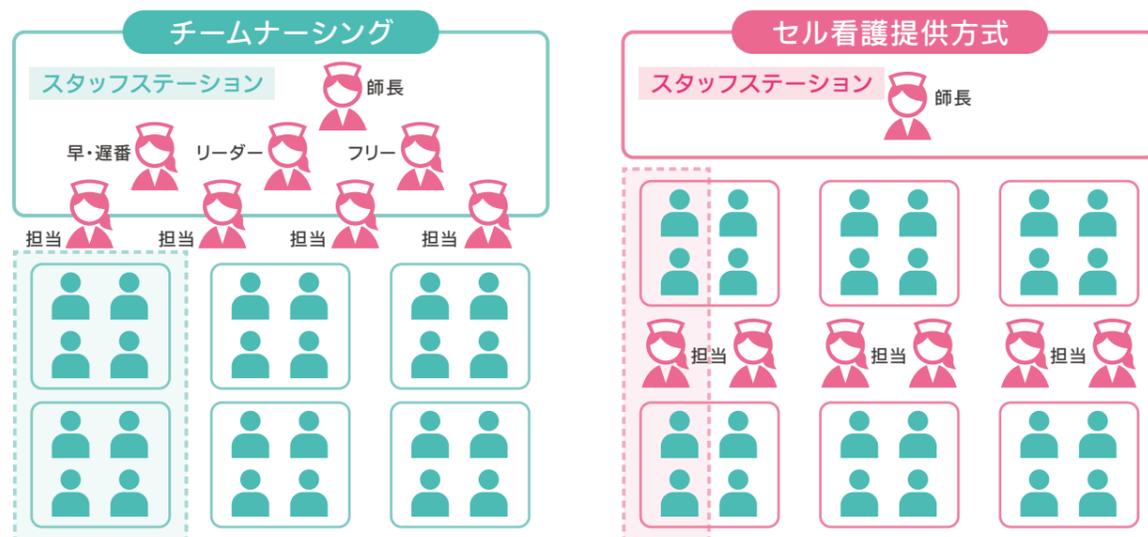
患者中心の「寄り添い看護」を実践します。

- 高齢化、複雑化する救急医療の現場で看護の専門性が発揮できる環境作り
- 多様性を認め、一人一人の生き方を共に考え「看護」を追求できる看護部を目指します



■セル看護体制の導入

受け持ち患者数を従来より少なくし、「寄り添い看護」で個人に沿った看護を提供します。



担当する患者さんの部屋には、先輩看護師が受け持つ患者さんもいるためいつでも相談できます。複眼的な視点で考えることができ、アセスメント能力を養うことができます。

■インカムの使用



情報共有をスムーズにリアルタイムに行い、チーム力の向上・看護師が患者さんから離れることなくケアを提供できる環境、業務効率の向上を目指しています。

■スマートフォンの利用



スケジュール管理、患者認証、薬品や疾患の情報確認、医療アプリの利用など、看護師の働き方へ大きく貢献します。



新人看護職員教育プログラム (※2023年度 参考)



時期	めやす	目標	クリニカルリーダー レベルI (新人)	その他
4月	慣れる 病院・部署の環境に 済生会職員はじめ	<ul style="list-style-type: none"> ● 患者さん・スタッフとコミュニケーションがとれる ● 報告・連絡・相談ができる ● 日常業務の流れが理解できる 	新人職員研修 済生会人 組織 医療安全 感染 看護技術 看護必要度 BLS	社会人基礎力研修 インターネット配信の活用「コース別講義配信」「看護手順・技術の動画配信」
5月			行動計画の立て方研修 多重課題対応研修	
6月	夜勤デビュー準備	<ul style="list-style-type: none"> ● 基本的な看護技術を安全に提供できる ● 夜勤業務の流れが理解できる 	リフレッシュ研修① (夜勤前) フィジカルアセスメント研修	
7月				
8月		<ul style="list-style-type: none"> ● 優先順位を考えながら業務を遂行できる ● 情報収集をもとにアセスメントし、必要な看護ケアが提供できる 	老人看護研修 NST研修 認知症看護研修 入退院支援研修	
9月				
10月				
11月	夜勤デビューから独り立ち	<ul style="list-style-type: none"> ● 患者の特性や状況に応じた看護技術の選択と応用ができる ● 自分の役割と責任を理解し、スタッフと協力しながら業務ができる 	留置針研修 1事例の看護過程の展開 薬剤研修 麻薬 危険薬 指示確認 Wチェック 倫理研修	
12月				
1月				
2月				
3月		● 1年間の振り返りができる	急変時対応研修 看護技術フォローアップ研修 リフレッシュ研修② (2年目に向けて)	

● 1年の流れ



【4月～6月】

済生会職員はじめ、病院・部署の環境に慣れる

【7月～8月】

個人に合わせて夜勤導入 (最初は指導者とダブル配置)

【9月～2月】

夜勤も始まり部署のシフトの仲間入り “独り立ち”

【3月】

次年度の新入職員を迎える準備 “1年間の振り返り”

先輩看護師へのインタビュー

Q1 済生会新潟病院を選んで良かったこと

Q2 済生会新潟病院のスタッフについて



新潟大学医学部
保健学科 看護学専攻卒業

Q1 教育体制がしっかりしており、看護師としての知識や技術をしっかりと身につけることができます。研修だけでなく、部署に戻ってからも先輩方が優しく教えてくださるのでとても心強いです。また福利厚生が充実していることや、休日もしっかりとれるのでプライベートも満足しています。

Q2 スタッフ間のコミュニケーションや挨拶が活発な印象を受けました。私の部署では先輩後輩、声を掛け合いながら互いの業務をサポートし合っているところが素敵だと思います。またわからないことや相談したいことがあったときに、丁寧に指導して頂いたり、初めての治療や検査などに会ったときに気にかけて声をかけてくださる先輩ばかりです。



新潟県立看護大学
看護学部 看護学科卒業

Q1 急性期病院であり様々な知識や技術が身につけられ、看護師としての基礎をしっかり学ぶことができます。忙しさはありますが、日々やりがいを感じながら仕事をしています。また、新人教育がしっかりしており、病棟へ行く前には2週間ほどの研修があり、また病棟へ行ってからも教育担当の先輩やプリセプターが指導して下さいます。なので安心して業務を行うことができました。

Q2 私の病棟は何かわからないことがあったときに誰にでも声をかけやすく、頼れる先輩がたくさんいます。そんな先輩方に支えられながら日々仕事を行っています。また休憩時には楽しく先輩や同期と話をすることができ、楽しく毎日を送っています。



新潟青陵大学卒業

Q1 私は、手術室で働いています。特殊な部署の配属で最初は不安もありましたが、先輩方の指導の下、毎日少しずつできる仕事が増え、やりがいを感じながら働くことができます。

当院は、手術件数も多く毎日忙しいですが、そんな中でも先輩方が個々の能力に合わせた手厚い指導をして下さるため、知識や技術の向上ができ、スキルアップできます。また、多くの手術件数を重ねることで日々成長が感じられ、自信にもつながります。

Q2 手術室は、スタッフ同士が声を掛け合い助け合いながら仕事をしています。また、経験や知識が豊富な先輩方が多く、わからないことは丁寧に教えてくださり、恵まれた環境で仕事ができていると感じます。



新潟医療福祉大学卒業

Q1 私は今、外科・消化器内科・皮膚科の混合病棟で働いています。入退院も多くあり、周手術期から慢性期、ターミナルの患者さんと

関わることができます。また、様々な疾患や手術前後の看護、化学療法や輸血などの知識と技術を身につけられます。わからないことがあっても経験豊富な先輩方が丁寧に指導して下さるので1歩ずつ着実にできることが増えて自信にも繋がり、安心して働くことができます。

Q2 スタッフ同士で声を掛け合い、助け合いながら日々業務を行っています。困ったときには先輩の力を借りながら、看護師として成長できる病棟です！



つくば国際大学卒業

Q1 全国にある大きい病院のため教育体制や福利厚生がしっかりしている点が良かったです。また、同僚の看護師も丁寧に

優しく指導して下さるので安心して働くことができます。週休、年休共にしっかりあるのでリフレッシュでき、仕事も頑張れます。

Q2 スタッフ間でコミュニケーションがとれているため相談しやすい環境で安心して働くことができます。



新潟県立新発田病院附属
看護専門学校卒業

Q1 研修内容が充実しており、新人でも安心してスキルアップを図れます。休み希望も通りやすく、ワーク

ライフバランスの休暇で年に1回7日間の長期休暇を取ることも可能です。仕事もプライベートも充実しています。

医療・福祉の切れ目ないサービスを実施しているため、入院から退院まで患者さんと深く関わられます。

Q2 スタッフは親切な方が多くとても恵まれている環境だと感じています。とても忙しい病棟ではありますが、先輩方がわからないことも優しく教えてくれるので安心です。日々心の支えにもなっています。



新潟青陵大学卒業

Q1 研修期間が長いため、知識や技術を身につけてから、病棟で働くことができます。病棟に出ても日々、新しいことがあるため不安でしたが、先輩からわかりやすく、丁寧に説明を受けることができるので、すぐに理解することができました。患者さんと関わりながら、看護師としてまた人として成長しながら、働くことができる環境だと思います。また休みの希望が通りやすく、プライベートと仕事を両立することができます。

Q2 B3病棟は治療が毎日あるので、忙しいですが、スタッフ間の中がよく、明るく笑顔の多い部署です。忙しい時はみんなで、声を掛け合い、助け合いながら仕事をしています。男性看護師もいるので心強く、先輩たちと何気ない会話も楽しいです。



当院のマスコットキャラクター
Dr.さいせい

特定認定看護師・認定看護師へのインタビュー

POINT

認定看護師の認定支援があります

院内より公募し、選考して決定します。
受験費用から認定合格までの費用を病院が負担し支援しています。



感染管理特定認定看護師

佐藤 清美

私は感染管理者として、感染の発生防止から、感染発生時の対応までの感染全般を担っています。たとえば、感染の発生する率を把握し、この結果から必要な対策をと

れるように、現場とともに考えます。また、感染対策がスムーズに現場で実践されるための組織づくりをしたり、マニュアルを作成したりします。そして、より安全に効率的に感染対策を行っていくための、新しい器材の導入を検討したりします。

さらに、医療従事者の感染に関する知識向上のために、院内外での講演活動も行っています。これらの役割を担うためには、多くの時間と労力が必要です。当院は感染管理の必要性に早期から着眼し、活動を拡大しています。



感染管理認定看護師

真柄 陽子

リンクナースとして感染対策について学ぶうち、自分が働く施設での感染管理を行うために具体的に何をすべきなのか？もっと専門的な知識を得たいと考え、資格取得

を目指しました。感染管理は、病院に関わる全ての人々を感染から守り、安全で質の高い医療環境を提供することを目的に活動します。

感染の予防および管理を効果的に実践するために、職員への感染防止教育、感染防止技術の向上を中心に実践していますが、医療の現場は高齢化や高度医療化、在宅復帰への推奨などに伴い多種多様化しているため、地域全体の感染対策が向上できるような支援や活動をしていきたいと考えています。



クリティカルケア特定認定看護師

山本 麗子

集中治療を必要とする患者さんやご家族は、急な病態の変化に不安やショックを抱えています。身体的・精神的に危機的状態にある患者さんやご家族が少しでも早く回復で

きるよう、日々の看護を通して手助けをしたいという思いから集中ケア認定看護師を目指しました。認定看護師としてICUを中心に、患者さんの病態を把握し重篤化を回避するための援助や、早期回復への援助をスタッフと共に考え実践しています。そんな中、医師が外来診療や手術などで不在の時にタイムリーなケアの提供ができないかと考え、特定行為研修を受講することにしました。研修修了後は、人工呼吸器関連の特定行為を中心に実践し、タイムリーなケアの提供をしています。これからも、危機的状態にある患者さんやご家族が本来あるべき姿を取り戻し笑顔で退院できるよう、急性期から退院後の生活までを見据えた看護の提供を多職種と連携し、チーム医療の一員として活動していきたいと思っています。



クリティカルケア特定認定看護師

竹田 一洋

クリティカルケアは生命の危機状態にある患者さんや、精神的な不安を抱える家族への対応が求められます。その中で大切なことは、患者さんや家族の元々持っている機能

を最大限に維持、向上させ可能な限り望む退院へと結び付けることだと感じています。看護師は緊急性のある対応や、ダイナミックに変化する患者さんと向き合うことが求められ「難しそう」というイメージを持たれるかもしれませんが。しかし私は患者さんが危機的状態から回復していく過程、笑顔で退院する姿を見ると「クリティカルケアって楽しい」と日々感じ、クリティカルケア認定看護師を目指しました。現在はクリティカルケアの「楽しさ」をスタッフへ伝えながら、一緒に看護を考え実践しています。また、患者さんや家族への退院を見据えた看護は、看護師だけでなく多職種で連携しなければ実現できません。チーム医療の架け橋となるよう、日々活動していきたいと心がけています。



感染管理認定看護師

野口 博人

感染管理認定看護師は、病原微生物から患者さんを守ることはもちろん、職員も守ることも重要な役割となっています。例えば針刺し対応マニュアルの作成や、流行し

やすい感染症である麻疹・風疹・結核・ムンプス・HBVのワクチン接種推進と把握を実施し、防げる感染症から職員を守っています。さらに院内感染に関するサーベイランスデータから、どのくらい感染が発生しているのかを把握して、現場に沿った対策と一緒に考えていきます。私自身、そういった病院内を感染から守る「砦」的な所に魅力を感じて感染管理認定看護師になりたいと考えました。目には見えない敵から病院に関わる全ての人を感染させないために、質の高い効率的な感染対策活動を実施していきたいと考えます。



緩和ケア認定看護師

平澤 和美

様々な患者さんとの出会いの中で、『つらいときこそ側にいてほしいと思ってもらえる看護師になりたい』『患者さんにとって“わかってくれる存在”になりたい』という気持ち

が強くなり、緩和ケア認定看護師の資格を取得しました。現在、緩和ケアチームの一員として、主治医やスタッフと共に患者さんご家族の苦痛緩和に努めています。患者さんやご家族との直接的な面談だけでなく、看護師の相談窓口やナースカンファレンスの参加、勉強会の開催などを通してより良いケアをみんなで検討しています。また、医療リハビリナースセラピストとして浮腫のある患者さんのケアを行っています。院内だけでなく、地域施設での勉強会、看護学生教育、市民講座など緩和ケアを伝える担い手として活動しています。これからもコミュニケーションと医療チームを大切にしながら、患者さんのLIFE（人生、生活、命）を支えるサポーターとして活動を続けていきたいと思っています。



皮膚・排泄ケア特定認定看護師

海老 菜穂子

私がこの分野の認定看護師を目指したのは、人工肛門（ストーマ）の患者さんの皮膚トラブルが発生した時に、自分の無力さを感じたからです。自分にもっと知識や技術

があれば、皮膚トラブルが改善できるのではないかと思いました。看護師は入院生活を送っている患者さんの一番傍にいますので患者さんの苦痛を感じている姿もたくさん目にすることがあります。そんな姿を少しでも軽減したいという想いから資格取得を目指しました。認定看護師の活動としては、人工肛門、人工膀胱（ストーマ）ケア、創傷ケア、褥瘡ケアや褥瘡予防ケア、失禁ケアを行っています。自分でもケアを実施しますが、病棟や外来看護師がケア方法に困っている時には相談を受け、ケアが実施できるように指導しながら活動しています。特定看護師としては、医師と協力して創りが改善するようにケア内容を考え、実践しています。



皮膚・排泄ケア認定看護師

小野塚 明美

皮膚・排泄ケア認定看護師は創傷・ストーマ・失禁ケアを専門的に行う看護師です。高齢化社会となり、おむつを使う方も増えて

きています。適切な排泄方法や用品を選択し、失禁に関連したスキントラブルを防ぐよう患者さんやスタッフへアドバイスをします。皮膚の加齢現象は皺だけでなく、褥瘡やスキントアといった皮膚症状として現れます。傷つきやすい、弱い皮膚の方に対しスキンケアを行うと、カサカサだった皮膚は潤いを取り戻し傷つきにくくなってきて喜ばれます。またストーマケアではオストメイト（人工肛門保有者）の方々が術後スムーズに社会復帰し、快適に日常生活を送れるようケアを提供しています。退院後少しづつストーマケアに慣れ「自信が付き、温泉に行ってきたよ」など患者さんからの報告を聞くと私も嬉しくなります。これからも患者さんに寄り添い、良い療養生活が送れるよう他のナースとも協力して活動していきたいと思っています。



がん化学療法看護認定看護師

高橋 由美

がん化学療法看護認定看護師は、がんで化学療法を受ける患者さんや家族へ専門的な看護を提供する役割を担っています。ある患者さんが言いました。「今の時代はがん

生きるのよ」と。その『生きる』がより良いものになるように、少しでも支えになればという思いで看護を実践しています。化学療法の進歩は著しく薬剤の知識は日々勉強です。治療内容を確認しながら、生活に合わせたケア方法を患者さんと一緒に考えていくことでセルフケアが継続でき、副作用の軽減や予防に繋がって生活の質の向上と笑顔が見られた時には、やっぴいよかったですと感じられる瞬間です。また、看護スタッフに対して勉強会を行ったり、一緒にケアを考えたりすることも活動の一つです。スタッフがよいケアをできたことと喜んでくれる姿を見るのは私の励みになります。これからも他の看護師や他の職種の方々と協力して、化学療法を受ける患者さんにより良いケアを提供していきたいと思っています。



がん性疼痛看護認定看護師

此村 奈都美

がん性疼痛看護認定看護師は、がん患者さんとその家族の緩和ケアにおいて、QOL（生活の質）に大きく関わる“痛み”を様々な側面から統合的にアセスメントし、個別

性のあるケアを計画・実践し痛みの緩和を目指していきます。認定看護師の活動としては、所属部署を中心に患者さんの症状の把握、薬物療法とケアの評価とアセスメントを繰り返し、症状緩和に務めています。また緩和ケアチームの一員としてスタッフの相談に応じ、看護師や医師、他職種と連携し共に問題解決に取り組んでいます。“痛み”の捉え方、感じ方は一人一人違います。いろいろな要因が複雑に絡み合って現れてくる症状なので「これにはこれが効く」という特効薬や決まりきった看護は存在しません。その都度患者さんやご家族の求めていることに真摯に向き合うこと、自分の価値観や経験でその人を見るのではなく、ありのままを受け止められるよう毎回「新しい自分」で活動していきたいと思っています。



皮膚・排泄ケア認定看護師

飯塚 友紀

私は消化器外科病棟で勤務するようになり人工肛門を造設した患者さんのケアを行う際に器具の漏れや皮膚障害が発生した際のケアに苦渋した経験と、皮膚・排泄

ケア認定看護師となりの確かな創傷・ストーマケアを行っている先輩の姿を見て資格を取得しようと思いました。現在の活動は、専門外来で人工肛門を造設した患者さんや創傷・褥瘡を持つ患者さんのケアを行っています。また、病棟からのケア相談に対して病棟スタッフと共にケア内容を検討しながら、患者さんが抱える問題解決に向け質の高い看護が提供できるよう支援しています。この分野に共通するスキンケアや排泄ケアは看護の基本であり、患者さんの生活の質に大きく関わってきます。常に患者さんやご家族の思いを尊重することを心がけ、その人らしい生活を送ることができるよう活動していきたいと考えています。



皮膚・排泄ケア認定看護師

高橋 恵里加

私は、人工肛門を造設・保有している患者さんのケアや褥瘡ケアを行ってきました。その中で、皮膚トラブル発生時に対応がで

きなかったり、患者さんや家族・スタッフなどから相談を受けた際に適切な回答をすることができず、自分の無力さを痛感することが多くありました。しかしながらその反面、患者さんがストーマセルフケアを確立し退院されていく姿を見たり、患者さんや家族と共にケアについて一緒に考えていくことで喜びを感じる場面も多くありました。自分自身の知識・技術力を高めることで患者さんや家族の不安や苦痛を軽減し、より安楽に日常生活を送れるように関わりたいという思いから資格取得を目指しました。創傷・ストーマ・失禁ケアとなると「どうしたらいいかわからない」「難しい」と感じることもあると思います。そんな時に共に考え実践し、患者さんや家族、そこに携わる方々に寄り添ったケアが提供できるよう活動していきたいと思っています。



認知症看護認定看護師

廣瀬 めぐみ

入院生活というものは、誰にとっても、慣れるまでに時間がかかり、不安を抱えやすいものです。認知症の方は、入院されても、治療の理解が難しくなったり、不安や混乱が強くなる傾向があります。私は、認知症であっても、ここは安心・安全だと感じ、穏やかな気持ちで過ごすことができる環境を作り、その方の持っている力を維持して退院出来るよう支援したいと考え、この資格を取得しました。現在の活動としては、主に病棟ラウンドで、認知症の方と関わるスタッフと、私たちが心がける関わり方や環境調整方法を話し合うことを行っています。また、多職種からなる認知症ケアチームで患者さまの状態を話し合い、病棟のケアに繋がっています。認知症の方との交流は、1人1人の人生観や思いに向き合うので、学ぶことも多いです。今後も1人1人の認知症の方に寄り添い、その方とご家族さまが笑顔に過ごせるよう尽力したいと思っています。



手術看護認定看護師

伊藤 敬子

近年、術式の複雑化・医療機器の高度化・手術患者の高齢化や高リスク化などにより、手術看護にも高い専門性が求められています。そんな中、昔ながらの慣習で行われていた手術看護に疑問を抱き、知識や技術を深めて、根拠に基づいた質の高い看護を提供したいと考え、認定看護師を目指しました。手術を受ける患者さんは、不安や恐怖など様々な感情を抱きながら入室し、意識や感覚が無くなるという特殊な状況の下、手術に臨まれます。私は手術看護認定看護師として、手術を受ける患者さんの代弁者・擁護者となり、専門的知識と技術に基づいた看護を実践すると共に、術前・術中・術後において過ごす場所を違っても、安全で安心な看護を継続して提供できる環境づくりを目標に活動しています。



糖尿病看護認定看護師

西山 陽子

糖尿病は、ほとんど無症状ですが、合併症が進んでしまうとQOLが低下することもある病気です。そのため患者さんは、これまでの生活習慣を改善し、生涯にわたる糖尿病の自己管理が必要となります。しかし、患者さんとお会いしていると、自己管理の継続は、病状だけでなく、その人の人生観や人間の感情・行動の複雑さが大きく影響すると感じます。私が糖尿病看護の道を選んだのは、“糖尿病とともにある自分らしい生活”の答えを患者自身が見つけ出せるよう、専門職として患者を“支える”ところに看護の面白さがあると感じたからです。現在は、看護外来を中心に患者さんと面談したり、看護師や医師・他職種との連携、スタッフへの糖尿病看護教育を行ったりしています。患者さんやスタッフから学ぶこともたくさんあります。生活スタイルに合わせた自己管理方法を獲得できるように、思いを受け止めながら患者さんを全体的にとらえた看護を心がけています。



認知症看護認定看護師

水落 真衣

認知症の方は、自分の置かれている状況理解や、思い・苦痛を言葉で表現することが難しくなります。病院という慣れない環境で入院・治療することに、大きな不安を抱え、その不安から混乱・興奮等の行動に繋がることがあります。私は、認知症の方が、できるだけ安心して治療が受けられるよう支援したいと思い、資格を取得しました。現在は、認知症ケアチームの一員として活動しています。認知症の方の思いを聴き、その方のもてる力に着目し、病棟看護師と一緒にケア方法や療養環境調整を考え、その人らしさを大切に支援を行っています。認知症の方の自宅に訪問して、療養生活での困りごとやその方を支えるご家族の相談・支援も行っています。認知症の方やご家族に笑顔が見られ、良い方向に変わったときには認定看護師としてのやりがいを感じます。認定看護師としての活動は、大変なことも少なくなく、悩むことも多いですが、認知症の方やご家族、関わる看護師が笑顔でいられるよう活動していきたいと思っています。



摂食・嚥下障害看護認定看護師

大久保 幸子

私たちは、『食べる』ことで、健康を維持し、その延長線上に喜びや楽しみを感じながら長い人生を送っています。もし、自分自身や大切な家族が、『食べる』ことを絶たれたらどんな気持ちになるでしょう。私たち嚥下チームは、より早くより安全に食べていただき、住み慣れた地域に戻っていただけるよう『口から食べる』支援活動を多職種ですめています。具体的には嚥下内視鏡検査をはじめとする嚥下機能評価や誤嚥性肺炎、窒息、低栄養、脱水の予防、そして嚥下訓練の選択および実施などです。超高齢社会の中で、担う役割は大きいですが、医療従事者だけでなく地域の方々も巻き込みながら嚥下強い病院、嚥下に強い地域作りに貢献したいと考えます。



不妊症看護認定看護師

西潟 あゆみ

不妊症という言葉聞く機会が増えたのではないのでしょうか？赤ちゃんは欲しいと思えばすぐに授かるもの、しかし現実には思い通りにいかず悩んでいるご夫婦がいます。そして不妊治療を受ける患者さんは年々増加しています。認定看護師として、患者さんが抱える治療の悩み・夫婦関係・仕事・費用のことなどについて相談対応をしています。「話せる場があったよかった」との発言もあり、患者さんにとって思いや悩みを話せることは次の治療に向けてまた頑張ろうという気持ちのモチベーションにもつながると思っています。不妊治療は年齢を重ねるにつれ妊娠することが難しく、焦りや先の見えない不安がつきまといまいます。前向きに治療に取り組めるようにサポートしていくこと、そして患者さんに治療内容を丁寧に伝え、ご夫婦が自分たちにとって合った治療内容を選び適切な治療が受けられるようにスタッフとともに考え、患者さんにとってより良い支援をしていきたいと思っています。

看護師の活躍の場



褥瘡回診

院内の褥瘡患者さんに対し、医師、栄養士、薬剤師と共に毎週褥瘡回診を行っています。回診では適切な局所ケアや、マットレスの選択、ポジショニング方法、栄養改善について検討し、病棟スタッフへアドバイスをしています。



看護外来

外来患者のQOL向上の為に、専門的な知識、技術を用いて患者・家族の相談・指導・ケアを行い、継続した医療支援を行います。個室の静かな環境の中で患者さんとコミュニケーションをとりながらケアを行っています。



訪問看護ステーション

患者さんの家庭を定期的に訪問し、地域のかかりつけ医と連携を取りながら、在宅での療養上のお世話や、必要な診療の補助を行なっています。



栄養サポート・嚥下サポートチーム

主治医を中心に看護師、管理栄養士、薬剤師、検査技師、理学療法士、歯科衛生士などが、各科・各セクションをこえて連携しチーム医療を展開しています。



TQMセンター

医療・サービスの質を継続的に向上させる部署です。医療安全管理では専従の看護師長を配置し、安全対策の推進をはかっています。また、感染管理を専任で行う医師(ICD)のもと、感染管理認定看護師(ICN)が専従で配置されています。



地域医療連携室・入退院支援室

オープンシステムの窓口業務(外来受診および検査、入院の依頼などの連絡調整)や、定期会議の企画・運営、また新規登録医への訪問活動などを行っています。



PFM

PFMとは、入院前から退院後までを一貫して支援する仕組みです。患者さんの病状や生活状況などの基本情報を入院前に把握することで、医療者の入院計画を立てやすくします。家族や患者さんもしっかりと理解した上で入院・治療を進めることができます。退院後は地域と連携しスムーズに生活の場に戻れるような支援を行っています。



緩和ケアチーム

患者さんとご家族の苦痛緩和を目指し、専門的な知識と技術を持った“緩和ケアチーム”と、主治医、病棟看護師、コメディカルが1つの大きなチームとなり緩和ケアを行っています。



心大血管疾患リハビリテーション

心疾患や大血管疾患の患者さんが、社会や職場に復帰でき、さらに再発を予防し快適で質の良い生活ができるよう、医師・看護師・理学療法士・栄養士がチームとなって、早期離床や運動療法、患者教育を行っています。



予防医療センター

人間ドック、新潟市の基本健診、職場検診、健康診断に来院された方々の採血、検査案内、検査説明、診察介助を行っています。



認知症ケアチーム

院内の認知症患者さんに対し、チームで最善の支援の方法を検討しています。

